

宿縁

四月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

聖道の慈悲と

浄土の慈悲



いま、1970年のイタリア映画「ひまわり」が50年の歳月を経てよみがえっています。女優ソフィア・ローレン主演で、戦争によって引き裂かれた夫婦の行く末を悲哀に満ちて描いた作品です。エンディングの地平線にまで及ぶ画面一面のひまわり畑と、ながれる愛のテーマ曲が多くの人たちの心を打ちました。そのひまわり畑は、ソ連邦時代のウクライナの首都キエフから南へ500キロほど行ったヘルソン州で撮ったものなのです。

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって一か月が経過し、戦禍は止むどころか益々激しさを増しています。ウクライナの国は平原が多く豊かな大地が広がり、小麦の生産が農業の中心で、また首都キエフはバレエなど芸術の古都として知られています。それらがロシア軍のミサイル攻撃で無惨に破壊され多くの市民が逃げまどい殺害されている現状を知るにつけ、まったく許しがたいロシアの残虐行為に憤りを覚えます。きっと世界中の人々は権力と大国の侵略という愚かな行為に対し直ちにやめてほしいと思い、戦禍を逃げ惑うウクライナの人たちに心を寄せ、何らかの支援ができないものかと思っているに違いありません。仏教でさとりに向かう行動に「自利利他(じりりた)」というとても大切な行為があります。「自利」とは自己を利すること、自らの行為によって自身が「利益(りやく)」を得ることです。利他とは他者を利すること、他の人々に功德利益を施すことです。仏教のさとりに至る歩みは「菩薩道(ぼさつどう)」と言って、自利がそのまま利他となり、利他がそのまま自利となる「自利利他円満」を理想としています。仏教では常に「いのちについて」向き合います。「命」「生命」「いのち」。どれもいのちと読みますがいのちあるものはあまたのいのちあるものを指し、人間に限らず

動物も植物もまた命あるものを「衆生」と呼び、生きとし生けるものすべてをいいます。そしてその一つ一つのいのちは、たった一つのかけがえのない存在であり、しかも独立しているものではなく互いにつながり合っている縁起的存在であると教えます。だから「殺生(せつしょう)」を一番の悪と禁じています。東日本大震災があつた年に、浄土真宗では親鸞聖人の750回大遠忌法要が勤まりました。東本願寺を本山とする大谷派で掲げたテーマは『いま、いのちがあなたを生きている』でした。ちよつと難解な言葉でしたが、この言葉は、親鸞聖人の世界観を表すすばらしい言葉だと評判になりました。私たちは通常、私がいのちを生きていると思っています。しかし、この言葉は、「いのち」の与格性を表現していると中島岳志氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)は著書「思いがけず利他」の中で述べています。与格とは、授受の対象、利益者などを表します。私がいのちを生きているのではない。「いのち」が私を生きている。つまり私は「いのちの器」であつて、「いのち」の所有者ではない。そんな与格的生命観が、言い表されています。浄土真宗では「如来からの呼びかけ」という言葉をよく使います。阿弥陀仏は、衆生を救済しようと、常に呼びかける存在です。問題は、その呼び声を聞くことができるかどうかです。自分の能力で何でもできる(自力の過信)と考えると、私たちは阿弥陀仏の声を聞くために、自己の限界を見つめる謙虚な姿勢が必要です。

他人に対して何とかしてあげたい、という行為をボランティア活動といえます。仏教的に言えば「利他」の行為でしょう。ボランティア活動の本質とは何でしょうか。活動に従事する人たちがよく「身が動く」という言葉を使います。災害などが起こると、何か考える前に身体が反応すると言います。ボランティアに行く意義や価値などを考える間もなく、まずは現場に駆け付け、すぐに活動に取り掛かる、これは「ボランティアに行く」という表現よりも、「ボランティアに行っちゃう」という、考える間もなく「身が動く」という与格的な情動というものでしょう。「慈悲に聖道浄土のかはりめあり。聖道の慈悲といふは、ものをあはれみ、悲しみ、はぐくむなり。しかれども、おもふがごとく助けとぐること、きはめてありがたし。浄土の慈悲といふは、念仏していそぎ仏になりて大慈大悲をもて、おもふがごとく衆生を利益するを言うべきなり。今生に、いかにいとをし不便とおもふとも、存知のごとくたすげがたければ、この慈悲始終なし。しかれば、念仏まうすのみぞ、すゑとをりたる大慈悲心にてさふらうべきと云々。」(歎異抄第四条) 純粋な行とは仏からやってくる力(はたらき)です。念仏は「大願業力(だいがんごうりき)」といいます。この「仏業(ぶつごう)」が宿ったとき、私たちは「浄土の慈悲」の器になります。ここで行われる行為こそ、利他的なものなのです。それはどうしようもないもの。あちら側からやってくる不可抗力です。ウクライナの惨状を通して「利他」について中島氏の考えをもとに述べてみました。

【寺灯雑記】

○宿縁廟並びに彼岸会法要が勤まる
3/21

新型コロナウイルスまん延防止期間がこの日解除となり、また春の暖かな日差しにも恵まれて久しぶりに賑やかな雰囲気の中で宿縁廟並びに彼岸会法要が勤められました。

宿縁廟前で行われた法要では新たに八名の方の遺骨が納められ、先人のみ跡を慕うとともにお念仏相続の新たな仏縁に感謝いたしました。

そのあと本堂にて彼岸会が修行され、讃仏偈の読経と仏教讃歌「衆会」が唱和されました。引き続きの法話は「現代人のためのブツダの教え」と題し、お馴染みの京都花園大学教授佐々木閑師からお聞きしました。

仏教は正しくものを見る力をいただく価値基準の転換が起り、仏教は、快適な暮らしを実現するためではなく、心の苦しみを消すための宗教であることをブツダの教えである四つの真理(諸行無常・諸法無我・一切皆苦・涅槃寂静)をあげて現代人の考え方見方を指摘されながらもとてもわかりやすくお話しいただきました。

○ウクライナ人道支援金を募る

ロシアのウクライナ侵攻はウクライナの各都市を無差別に攻撃し、子どもを含めた多くの民間人が犠牲となり、加えて何百万人を超える難民が避難を余儀なくされています。

当寺として春のお彼岸に人道支援金箱を本堂に設置しました。そしてこの程「中原寺ふれあい募金」として浄土真宗本願寺派たす

毛あい運動募金「ウクライナ緊急支援募金」宛に10万円を送金致しました。ご協力に感謝申し上げます。

尚、皆さまからの募金は引き続き継続します。お志は「中原寺ふれあい募金宛」(〒振替口座番号00110-6-740059)へお願い致します。

○ご寄進ありがとうございます

- *お仏飯米 施主 浜根健一様
- *親鸞聖人御誕生八五十年・立教開宗八百年慶讃法要記念大五条袈裟と輪袈裟 施主 山田憲典様

○Eテレで「歎異抄にであう」を放送

本年4月(9月)全6回
放送日―第3日曜日午前5時〜6時
再放送―同週土曜日午後1時〜2時

NHK心の時代(宗教・人生)で当寺でもお馴染みの阿満利磨先生が「歎異抄にであう―無宗教からの扉」と題して出演されます。第1回は4月17日(日)午前5時〜6時です。是非お見逃しなくお聞きください。

尚そのテキストがNHK出版から販売されています。ですので活用されると良いと思います。

【仏事Q&A】

Q、浄土真宗のお寺には、お守りはないのですか？

お守りは多くの寺社で参拝者に販売や授与されているので、浄土真宗のお寺でも取り扱っていると考えられている方もいらっ

しやることでしよう。しかし浄土真宗のお寺では、お守りを扱うことはありません。浄土真宗の親鸞聖人は、「現世祈禱(げんせきとう)にたよらない」という教えを説かれているからです。お守りには、商売繁盛、家内安全、無病息災、恋愛や学業の成就、合格祈願、交通安全など、さまざまなものがあります。「よいことがあるように」、あるいは「悪いことがおきないように」といった願いが込められています。

しかし考えてみますと、私たちの願いは、自分自身の欲望を満足させることにつながっています。私たちの欲望は尽きることがありませんので、願いがどれだけ叶ったとしても満足することはなく、逆に願いが叶わなければ、「これほど祈っているのに」と、ますます苦しむこととなります。

このような欲望の心を持ち合わせている私たちがこそ救われずにおられないと願われているのが、阿弥陀如来です。願うのではなく、「阿弥陀如来に願われている」、お守りに頼るのではなく、「阿弥陀如来に護られている」という教えが浄土真宗なのです。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【四月の行事・法座の案内】

☆花まつり

四月三日(日) 十時半

仏さまのお話、ビデオ紙芝居、ゲーム、アンブレラメーカー作り等。

「花まつり」とは、4月8日のお釈迦さまのお誕生日を祝う行事のことです。是非お子さまと一緒に釈迦さまのお誕生日をお祝いいたしましょう。

ご参加の方は電話、メールにてお申し込みください！

○婦人会法座

四月三日(日) 一時半

- ・ご文章に学ぶ―出家発心章
- ・童謡を歌おう
- ・座談会

○壮年会法座

四月三日(日) 一時半

- ・仏説阿弥陀経解説
- ・座談会

○入門式

四月十七日(日) 十二時半

初めて当時とご縁を結ばれる方々の入門の誓いをいただく集いです。門徒式章と聖典を授与いたします。

○常例法座

四月十七日(日) 一時

講師―熊原博文師(戸田市正善寺)

○門信徒会役員会(新年度第一回)

四月十七日(日) 三時半

○教行信証を学ぶ(証巻)

四月二十三日(土) 二時

【四月の掲示板のことば】

己が身にひきくらべて殺してはならぬ
殺さしめてはならぬ